

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	8
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	8
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	9
3 機能別委員会の開催とその議題	9
4 分野別委員会の開催とその議題	9
5 課題別委員会の開催とその議題	13
6 若手アカデミーの開催とその議題	13
7 サイエンスカフェの開催	13
8 記録	13
9 総合科学技術・イノベーション会議報告	13
10 慶弔	14
11 インパクトレポート	14

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
9 月 22 日 (水)	近畿地区学術講演会 in 京都	山極会長
9 月 24 日 (木)	日本学術会議会長記者会見 —第 24 期の活動を振り返って— (日学 5 階会議室、オンライン)	山極会長 三成副会長 渡辺副会長 武内副会長
9 月 26 日 (土)	東北地区会議主催 公開学術講演会「人生 100 年時代の雇用問題」	渡辺副会長
9 月 26 日 (土)	Science20 Summit	武内副会長
9 月 27 日 (日)	日本学術会議 in 山口 オンライン公開講演会「AI 戦略の地方への展開」	山極会長 渡辺副会長 武内副会長
10 月 1 日 (木) ～3 日 (土)	第 181 回日本学術会議 総会 *新副会長は 10 月 2 日 (金) 任命。	梶田会長 望月副会長 菱田副会長 高村副会長
10 月 16 日 (金)	菅義偉内閣総理大臣との面談	梶田会長
10 月 23 日 (金)	井上信治内閣府特命担当大臣 (科学技術政策担当) との意見交換	梶田会長 菱田副会長 高村副会長 小林第一部幹事

注) 部会、委員会等を除く。

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部会 (第 1 回) (10 月 2 日)

(2) 第二部会 (第 1 回) (10 月 2 日)

(3) 第三部会 (第 1 回) (10 月 2 日)

(4) **第二部会役員会** (第1回) (10月15日)

- ① 委員会、分科会への委員の推薦について
- ② 関連学協会連合体との連携について
- ③ 今期の活動方針について
- ④ その他

(5) **第三部拡大役員会** (第1回) (10月29日)

- ① 第三部会 (第25期・第1回) の議事要旨の確認
- ② 第三部 各分野別委員会委員長の確認
- ③ 第三部会員に対する機能別委員会分科会の希望調査の結果について
- ④ 理学・工学学協会連絡協議会について
- ⑤ 今後の第三部の進め方について
- ⑥ その他

(6) **第三部拡大役員会** (第2回) ・ **理学・工学系学協会連絡協議会** (第11回) (10月30日)

〔第11 回理学・工学系学協会連絡協議会〕

- ① 開会の挨拶： 第三部部長 吉村忍
- ② 第三部拡大役員会 第25期役員と各分野別委員会委員長の紹介
- ③ 趣旨説明第三部会員に対する機能別委員会分科会の希望調査の結果について
- ④ 学協会からのご意見発表
- ⑤ 意見交換

〔第三部拡大役員会委員のみ〕

- ① 第三部附置分科会の設置について
- ② 意思の表出に関する第三部査読ルールについて
- ③ その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

なし

3 機能別委員会の開催とその議題

なし

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 哲学委員会 (第1回) (10月2日)

(2) 心理学・教育学委員会 (第1回) (10月3日)

(3) 社会学委員会 (第1回) (10月3日)

(4) 史学委員会 (第1回) (10月3日)

(5) 地域研究委員会 (第1回) (10月3日)

(6) 政治学委員会 (第1回) (10月3日)

(7) 経営学委員会 (第1回) (10月3日)

(8) 言語・文学委員会 (第1回) (10月3日)

(9) 法学委員会 (第1回) (10月3日)

(10) 経済学委員会 (第1回) (10月3日)

(11) 史学委員会 中高大歴史教育に関する分科会 (第1回) (10月18日)

① 役員の選出

② 提言「歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について」のフォローアップシンポジウムについて

③ 第25期分科会の重点課題について

④ その他

第二部担当

(1) 基礎生物学委員会 (第1回) (10月3日)

(2) 農学委員会 (第1回) (10月3日)

(3) 食料科学委員会 (第1回) (10月3日)

(4) 健康・生活委員会 (第1回) (10月3日)

(5) 歯学委員会 (第1回) (10月3日)

(6) 薬学委員会 (第1回) (10月3日)

(7) 統合生物学委員会 (第1回) (10月3日)

(8) 基礎医学委員会 (第1回) (10月3日)

(9) 臨床医学委員会 (第1回) (10月3日)

(10) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・
情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会 (第1回) (10月13日)

① 分科会メンバーの確認

② 委員長などの役員の選出

③ 分科会メンバーのリクルートについて

④ その他

第三部担当

(1) 環境学委員会 (第1回) (10月3日)

(2) 数理科学委員会 (第1回) (10月3日)

(3) 物理学委員会 (第1回) (10月3日)

(4) 地球惑星科学委員会 (第1回) (10月3日)

(5) 情報学委員会 (第1回) (10月3日)

(6) 化学委員会 (第1回) (10月3日)

(7) 総合工学委員会 (第1回) (10月3日)

(8) 機械工学委員会 (第1回) (10月3日)

(9) 電気電子工学委員会 (第1回) (10月3日)

(10) 土木工学・建築学委員会 (第1回) (10月3日)

(11) 材料工学委員会 (第1回) (10月3日)

(12) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 (第1回) (10月12日)

① 役員の選出 (委員長、副委員長、幹事の選出)

- ② メールアドレスの承認
- ③ 今後の委員の追加に関して
- ④ 特任連携会員推薦の承認および IUGS 分科会傘下の小委員会設置について承認
- ⑤ 議事要旨の承認について、委員間でメール回覧後委員長に一任することに関する承認
- ⑥ 25 期への申し送り事項と活動方針
- ⑦ その他

(13) **地球惑星科学委員会 SCOR 分科会**（第 1 回）（10 月 16 日）

- ① 第 25 期 SCOR 分科会役員の選出について
- ② 第 25 期 SCOR 分科会委員の追加について
- ③ 第 25 期特任連携会員の承認について
- ④ 第 25 期 SCOR 分科会傘下の小委員会設置について
- ⑤ その他

(14) **化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会**（第 1 回）・**化学委員会 IUCr 分科会**（第 1 回）**合同会議**（10 月 16 日）

- ① 役員の選出
- ② 新委員候補の承認
- ③ 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- ④ 委員長委員間のメールアドレス共有について
- ⑤ 前期の活動報告
- ⑥ 今期の活動方針
- ⑦ 公開 web シンポジウム「COVID19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」開催へ向けての打ち合わせ
- ⑧ その他

(15) **材料工学委員会**（第 2 回）（10 月 19 日）

- ① 材料工学委員会関連分科の設置について
- ② 材料工学委員会の構成と重点審議事項について
- ③ 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- ④ その他

(16) **健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会**（第 1 回）（10 月 20 日）

- ① 25 期役員の推薦について
- ② 25 期分科会委員および特任連携会員の推薦について
- ③ e-book の編集について
- ④ 25 期活動計画について
- ⑤ その他

(17) 化学委員会分析化学分科会（第1回）（10月21日）

- ① 委員長，副委員長，幹事の決定
- ② 追加委員候補の決定
- ③ 来年度への分科会継続について
- ④ 12/25 の化学委員会合同会議，及び第2回分科会について
- ⑤ 11/11 のフォーラムについて
- ⑥ その他

(18) 数理科学委員会数学教育分科会（第1回）（10月24日）

- ① 役員選出
- ② 追加委員候補について
- ③ 統計教育の研修・講習について
- ④ その他

5 課題別委員会の開催とその議題

なし

6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

7 サイエンスカフェの開催

なし

8 記録

なし

9 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合

10月 8日（木）CSTI 木曜会合
10月15日（木）CSTI 木曜会合
10月22日（木）CSTI 木曜会合（オンライン）

10 慶弔

・慶事

令和二年文化功労者 令和二年10月27日公表

堀田 凱樹（元連携会員（第20-21期））
十倉 好紀（元会員（第20期会員）・元連携会員（第21-22期、第23-24期））
原島 文雄（元会員（第20期会員）・元連携会員（第21-22期））

11 インパクトレポート

（1）（提言）「第6期科学技術基本計画に向けての提言」 インパクト・レポート

1 提言等内容

〔現状及び背景〕

近年、日本の研究者のノーベル賞受賞が相次ぐ一方で、研究者の間では、世界の中で日本の研究力が危機にあるという認識が急速に広がっている。危機の本質は、今日、日本の大学等の研究機関において、研究者各自の内発的関心に基づき長期的視野から腰を据えて基礎研究に取り組む環境が急速に失われ、学術の裾野を形成する研究者の活動が弱体化している点にある。次の第6期科学技術基本計画（以下「次期基本計画」という。）が対象とする2021年からの5年間は、日本の学術が今後も発展を持続できるかどうかにとって極めて重要な意味を持つ。本提言は、学術の現場の目から、次期基本計画がとるべき施策を提案する。

〔提言の内容〕

次期基本計画策定に向けて本提言が特に重要と考える基本的視点は、①基礎研究の重要性、②学術の多様性・総合性の実現、③基盤的研究資金と競争的研究資金、ボトムアップ型研究資金とトップダウン型研究資金の間のバランスのとれた研究投資の3点である。これらの視点を踏まえて本提言は、特に以下のことを提案する。

(1) 次世代を担う博士課程学生への経済的支援の抜本的拡充、キャリアパスの多様化

日本の研究力低下の最大の要因は博士課程学生数の減少である。日本の研究力向上の最優先課題として、欧米並みの博士課程学生への経済的支援が必要である。また、博士課程修了者を社会全体として活用していく視点も重要である。

(2) 学術の多様性に資する公的研究資金制度全体のグランドデザインの再構築

過度の「選択と集中」というこれまでの研究投資のあり方を転換し、大学等の基礎研究を支援する運営費交付金等の拡充、科学研究費補助金の拡充が必要である。科学技術振興費も含めた公的研究資金制度全体のグランドデザインの再構築も必要である。

(3) 科学者コミュニティにおける多様性実現

科学者コミュニティにおける多様性の確保は、現在国際標準となっているにもかかわらず、日本では、この間、女性研究者比率の増加は限定的な水準にとどまっている。「無意識のバイアス」の排除やライフイベントへの配慮などにより、女性、外国人、障がい者等の研究者の多様性を実現することが急務であり、それがまた日本の研究力強化にもつながる。

(4) 科学技術政策への科学者コミュニティの参加

学術の持続的発展という根本的な課題に立ち戻り、学術研究のあり方を包括的に考える科学技術政策の実現のためには、学術の現場の声の反映が重要であり、政策形成への日本学術会議等科学者コミュニティの主体的かつ組織的な参加が有益である。

2 提言等の発出年月日

2019 年 10 月 31 日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

- 内閣府の総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）専門家会合（2019 年 11 月 7 日）に本分科会役員が出席し、本提言の内容を説明。さらに、山極壽一前会長が、同専門家会合において随時本提言に言及した発言。
- 日本学術会議「科学技術基本法改正に関する日本学術会議幹事会声明」（2020 年 1 月 28 日）において本提言を引用。
- 本分科会主催で学術フォーラム「日本の学術の現状と展望：第 6 期科学技術基本計画に向けて」（2020 年 5 月 9 日）を企画。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため中止。
- 『学術の動向』2020 年 5 月号に本提言の内容を紹介する記事を掲載（佐藤岩夫「第 6 期科学技術基本計画に向けての提言」『学術の動向』2020 年 5 月号）。
- 日本学術会議「未来からの問い」検討委員会編『未来からの問：日本学術会議 100 年を構想する』（2010 年 9 月）第 9 章 9-3 において、日本の学術政策の課題と展望に関連して本提言を引用。
- その後発出された複数の学術会議提言が本提言を参照。
 - ・ 提言「長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けたイノベーションの加速」（日本学術会議、総合工学委員会、エネルギーと科学技術に関する分科会、2020 年 5 月 12 日）。
 - ・ 提言「日本の停滞を打破し新産業創出を促す社会基盤と研究強化：応用物理からの提言」（日本学術会議、総合工学委員会、未来社会と応用物理分科会、2020 年 6 月 16 日）。
 - ・ 提言「人口減少社会に対応した農業情報システム科学の課題と展望」（日本学術会議、農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会、2020 年 9 月 7 日）。
 - ・ 提言「シチズンサイエンスを推進する社会システムの構築を目指して」（日本学術

会議、若手アカデミー、2020 年 9 月 14 日)。

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

- 総合科学技術・イノベーション会議が 2020 年 1 月に発表した「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」においては、若手研究者の抜本的強化、研究・教育活動時間の十分な確保、研究人材の多様なキャリアパスの実現等の政策が打ち出されており、その内容は本提言の内容と重なる。(上記 2019 年 11 月 7 日の総合科学技術・イノベーション会議専門家会合における説明等を通じて本提言が一定の効果を及ぼした可能性を推測しているが、関係者への聞き取りを行っておらず、正確には確認できていない。)
- 総合科学技術・イノベーション会議において、現在、次期基本計画の策定作業が進行中である。同計画に本提言の内容が反映されることを期待する。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

(b) 研究教育機関

- 科学技術振興機構の「科学技術情報プラットフォーム」において、本提言を紹介(2019 年 11 月 15 日)。
- 国立大学附置研究所・センター会議、国立大学共同利用・共同研究拠点協議会が文部科学省研究振興局学術機関課に提出した要望書「多様な学術を支える研究基盤の継続的強化に向けて(7)」(2020 年 7 月 20 日)において、基礎研究の一層の推進を求める文脈で本提言を引用。

(c) 市民

- 国立国会図書館の情報ポータル「カレントアウェアネス・ポータル」において、本提言を紹介(2019 年 11 月 7 日)

5 メディア

- 科学新聞(2019 年 11 月 15 日): 提言内容の解説を含む詳しい記事が掲載。

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

とくになし。

7 考察と自己点検(a-c から一つ選択し、説明する)

(a) 予想以上のインパクトがあった

(b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

(c) 期待したインパクトは得られなかった

- 本提言が主要なターゲットとする次期基本計画については、現在、総合科学技術・イノベーション会議において策定作業が進行中であることから、(a)から(c)のいずれで

あるかは、現時点では評価しがたい。

- 上記の通り、総合科学技術・イノベーション会議が2020年1月に発表した「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」においては、若手研究者の抜本的強化、研究・教育活動時間の十分な確保、研究人材の多様なキャリアパスの実現等の政策が打ち出されており、その内容は、本提言の内容と重なる。
- 本提言が掲げた①基礎研究の重要性、②学術の多様性・総合性の実現、③バランスのとれた研究投資の観点及びそれに基づく具体的提言は、次期基本計画にぜひ反映すべき内容であり、日本学術会議としても引き続き総合科学技術・イノベーション会議に対する働きかけを行う必要がある（参考：同会議の専門家会合及び基本計画調査会には学術会議会長も委員として参加している）。

インパクト・レポート作成責任者

科学者委員会学術体制委員長 佐藤岩夫

提出日 2020年10月12日